



Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会 教会報

2013

2

No.494



神様の15分

ダニエル・コリンズ神父

間もなく四旬節がやってきます。復活祭に向けての準備が始まり、そのためのいろいろな典礼があり、時には断食をしたり、時には犠牲を払います。

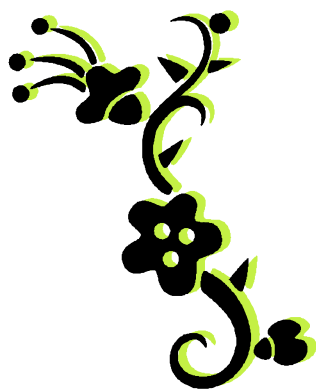
私自身は、今年の四旬節は祈りの時期にしたいと思っています。

普段の、喜びも悲しみも悔いも願いも私の方からの一方的な話しかけになっている祈りではなく、ただ聞く祈りの時間を持ちたいと思っています。神様からのメッセージをゆっくりと聞きたい。生活の中に起きるできごとでさまざまに話してくださる神様からのメッセージ、失敗や希望などを通して語られる神様のことばを私は充分聞いているだろうか？神様の教えをきちんと聴いているだろうか？

先日、広島音楽大学の学長をしていた神父が亡くなったが、彼は音楽関係者だったので確かにいい耳を持っていた。彼には神様のメッセージはどう聞こえていたのだろうか。

聴くこと ―― 言われていることだけではなく、裏に隠れているものに気づき、深い意味まで聞き分けたいと思います。時々、信徒の方に、イグナチオの霊操をしたいので指導をしてほしいと言われますが、私はその方たちに「普段、どのように祈っていますか」と質問をします。祈りで“聴く”のは難しい。しかも耳で聞くのではなく、心で聴くのです。

ひとつのやり方として、時間を取るようにしましょう。多くなくていいのです。自分の生活の中の15分を神様の15分とするのです。ひとりになって、神様の前に身を置き、耳を澄ませましょう。どういう心を持って神様の前に出るか、何を聴くべきか、祈りを中心に自分の心の中の雰囲気を変えていくのです。そうすれば、神様と共にいる心持ちになって、その時間を深めることになるでしょう。たった15分が豊かなものになるはずです。



六甲教会は四旬節の時期に十字架の道行きを行いますが、その中で必要なことは祈る心です。神様からのメッセージを聞くことです。信仰年の復活祭にあたり、私たちはどんな風になるべきでしょうか？ その鍵は祈りであり、聴くことができるようになることです。

さあ、“祈りの共同体”となるために、私たちは歩み出しましょう。

忘れないで！

東日本の被災地から(10)

犠牲になった命を忘れない

片柳弘史

2013年1月の時点で東日本大震災による死者は1万5879人。警察に届け出があった行方不明者は2700人となっています。たった1つの地震によってわずかの間に奪われたこれらの尊い命を、わたしたちは生きている限り決して忘れてはならないと思います。

「一瞬先のことさえ予知できない」

先日、東遊園地で阪神淡路大震災の18回目の追悼式典が行われました。当時わたしは埼玉に住んでいましたが、震災ボランティアとして神戸に入って目撃したさまざまな場面は、今でもわたしの目に焼き付いて離れません。焼け跡で大声を上げて泣き続けるおばあさん。体育館の隅でうずくまり、顔を上げようとしないうちの子供も。わたしは何もできない無力感に打ちのめされました。

阪神淡路大震災がわたしたちに教えてくれたもの、それは何だったでしょう。「1.17 希望の光り」の台座にはこう書かれています。

震災が奪ったもの

命 仕事 団欒（だんらん） 街並み 思い出

・・・たった一秒先が予知できない人間の限界・・・

震災が残してくれたもの

やさしさ 思いやり 絆（きずな） 仲間



この言葉の中で、今わたしの心に一番突き刺さるのは「たった一秒先が予知できない人間の限界」という言葉です。

もし明日起こることが予知できていれば、亡くなった6400人のうちどれだけの方が避難できたことか、わたしたちは一体どれだけの方を助けることができたことか。しかし、わたしたちは自分がいつ災害や事故に遭って死ぬか、家族や仲間がそのような目に合うか、まったく先のことを知らないのです。これはまさに「人間の限界」と言っていいいでしょう。震災が教えてくれたのは、まさにこの人間の弱さであり、無力さであったと思います。

亡くなった方々の分まで

東日本大震災で、わたしたちはこの「人間の限界」を再び大自然によって突き付けられました。亡くなった方々の命を無駄にしないためにも、わたしたちは改めてこの「人間の限界」を深く心に刻む必要があると思います。

「人間の限界」を意識するとき、わたしたちは日々を謙遜な心で精いっぱい生きることができるとでしょう。どれだけたくさんものを持っていても、どれだけ元気でも、誰も自分の明日を思い通りにすることはできないのです。その事実と直面するとき、わたしたちはあらゆる傲慢を捨てざるをえません。そして、命の与え主である神に感謝して、一日一日を精いっぱい生きたいと思うようになるのです。

そのような気持ちで生きて、よりよい神戸、よりよい日本、よりよい世界を作っていくことが、亡くなった方々の犠牲を無駄にしないためにわたしたちができる唯一のことでしょう。阪神淡路大震災の犠牲者の方々、そして東日本大震災の犠牲者の方々の命を決して忘れることなく、亡くなった方々の分まで毎日を精いっぱい生きていきたいと思っています。

新 成 人 祝 福

1月13日(日)10時のミサの中で新成人に祝福が授けられました。
今年は12名の新成人が誕生しました。お名前と届きました喜びの声をご紹介します。



ルカ	航己
マリア ベルナデッタ	友紀子
マリア	愛満
小さき花のテレジア	恵
ジタ マリア	恵理菜
フランシスカ	桂子

ヨゼフ	瞭
マリア・テレジア	保子
ヨハネ	翔大
フランシスコ ザビエル	文洪
マルセリーノ	拓也
ヴァレンティン	暖

★ ★ 新成人たちより一言 ★ ★

翔大

今でも親を頼っていますが、これからは自分で出来ることがたくさんあるので、頑張っていきたいです。

拓也

若いうちにしか出来ないことをやりきる。これからの六甲教会を背負い立っていけるようになっていきたいです。

春菜

あと2年大学で一生懸命勉強して、素敵なナースになります！

他にも、今しかできないこともいっぱいしたいです。
(教会学校リーダー)

恵

たくさんの方々に祝ってもらえて幸せです。素敵な大人の女性になります！
ありがとうございました！

愛満

本日はこのような素敵な場を設けて下さって、ありがとうございました。

まだまだ発展途上な私ですが、これからも様々な経験を通し、広い視野を身につけて成長していきたいと思います。



<行事報告>

教会新年会

1月13日（日）約120名の方が集い、教会新年会と新成人のお祝いの会が行われました。今年は、私の所属地区である東灘南担当ということで、10年ぶり（10年前の参加は、転入者として紹介された新年会でした。）に参加し、何か手伝いでもしようかと軽い気持ちでいました。ところが、今年になって、妻から「あなたが新年会の司会をするようになりましたよ。」と“すまし顔”で言われ、「そんな殺生な！」と思いながら（妻には、当然「断れないか？」、「他に最適な人がいるのでは？」と言いましたが、聞く耳なし。）、川合地区長を始め地区の運営委員の方々が、一生懸命準備されていることがわかっていましたので、引き受けることにしました。

新年会の当日まず驚いたのは、食べ物、飲み物、お菓子の手配準備、テーブルセッティング等の地区の方々（特に婦人の方）の手際の良さ、そして時間とともに増えるケーキの数でした。これは、地区の方および地区以外の方から届けられた手作りケーキとのこと、寄付してくださった方々に厚くお礼申し上げます。

新年会は、松村神父様の挨拶で始まりました。新成人の紹介では、5名の若者が、自己紹介と新成人としての抱負をスピーチしてくれました。皆さんしっかりした将来像を描いておられ、非常に楽しみな若者達であり、これから「六甲教会の光」となれると確信しました。また、昨年受洗された方、昨年転入された方および六甲学院に来られた神学生の大西様のご紹介をさせていただきました。そして、その方々に新たに六甲共同体にかかわってもらうために、共同体の紹介をさせていただきましたが、気が付けば、共同体とのかかわりが少ない自分自身、大いに反省させられました。

乾杯の後は、食事歓談そして川合東灘南地区長による恒例のジャンケンゲームまた河野さんのリードで窪岡ご夫妻のピアノとバイオリンの伴奏による参加者全員の合唱を行い、大いに盛り上がりました。

本当に楽しい、素晴らしい新年会でした。ありがとうございました。

（東灘南地区 堤）



<行事報告>

教会学校3学期は餅つきから

2013年は寒さのうちに始まりました。12日の教会学校始業式は、恒例のお餅つき。今年はお天気に恵まれ、藤棚の下で皆元気にお餅をつきました。それに加えて、今年はまだひとつ作業がありました。関西学院大学のBridge for Children、KGUから申し出があったフィリピンの貧しい子どもたちの為のミサンガ作りです。以前にも、そのフィリピンのごみの山「スモークマウンテン」に依存して生きる子どもたちにサンダルを送る運動に協力したことがありました。

餅つきは一度に全員でするのではなく、10名程度の班に分けてするので、結構待ち時間があるのです。その間は、第1会議室でビデオを見たりしていました。そこへ、ミサンガ作りが加わったのでいつもより充実した時を子どもたちは過ごせたのではないかと思います。

ミサンガというのは、プロミスリングとも言われ、何か願いごとをする時に身につける、紐で出来た腕輪で、きれいな刺繍糸を編んで作ります。

以下、当日集めた子どもたちの「生」の感想です。

- ・お餅を食べている時がすごく楽しかった。
- ・お餅をつくのは重かったです。でも、その分お餅はおいしかったです。
- ・家で食べた 30 個と、ここで食べた 7 個は平等に楽しかった。木にひっついたお餅が楽しかった。砂糖醤油、大根醤油がサイコー。
上に飛ぶ餅、下に飛び散る餅。いと風流なり。
- ・ついたばかりのお餅だったから、とってもおいしかった。
ついてすぐのお餅は、おいしかったし、とてもやわらかかった。
- ・ミサンガ作りが楽しかった。
- ・ミサンガ作りで競争してリーダーに勝ててうれしかった。



<行事報告>

混声合唱団 グランダ御影山手 訪問 ～お礼状より

1 月 20 日、日曜日の午後、グランダ御影山手のダイニングに六甲教会混声合唱団の皆さんの温かい歌声が流れました。「青い山脈」「ゴンドラの唄」など懐かしい歌と一緒に口ずさむ方、手拍子をする方もおられ、なごやかな雰囲気になりました。音楽には人々を元気づけたり、癒したりする大きな力があります。日頃、声を出し続けている入居者の方が神戸の地震の水を静かに聞き入っている様子に感動いたしました。

それにしても皆さんの若々しいこと、特に男性の方々は人数が少ないながらもよく声が響き、歌に厚みを与えていて素晴らしかったです。合唱は私達を楽しませてくれるだけでなく、皆さんの若さの源でもあるんですね。またぜひお越しくださいませ。お待ちしております。

感謝をこめて

(中藺；グランダ御影山手サービススタッフ)

心に染みる歌、心温まる歌、心洗われる歌……素晴らしい歌声と共に、心地よいひと時を過ごすことができました。二度目のご来訪とあって、みなさまの笑顔に親しみを感じ、距離が近く感じられました。

言葉を発してお話しされない方が、歌われる皆様をじっと見つめる様子を側で拝見してありましたところ、だんだんと表情が和み、穏やかな顔つきになられたように思いました。皆様のハーモニーが春の日差しのようにその方の心の中を温めているように思えました。

寒中にもかかわらず、21 名もの方々のご来訪に感謝致します。演奏の最後に「また来ますね」と仰られた言葉と笑顔を記憶にとどめ、次回を楽しみにお待ちしております。

(家治川；グランダ御影山手受付)



《 各 部 だ よ り 》 各専門部会の活動をお知らせいたします

三日月会

2月18日(月)14時からミサ

そのあと寒さに負けない健康づくりを
始めましょう！！

「指ヨガによる自力整体」のお話と実技、
講師は 聖歌隊の中村泉さん

小教区評議会

2月9日(土)10:00 拡大評議会
於 イグナチオホール

典礼部

2月23日(土)10時～ 典礼部会

中高生会

春の錬成会 3月25日～28日

津和野に行くことを予定しています。

「わたしたちは何を信じているのか」を
見つめ直す旅にしたいと思います。

詳細はリーダーにお問い合わせ下さい。

たくさんの参加をお待ちしています。

社会活動部

2月1日(金)初金ミサ後 連絡会開催

於 信徒会館・第2会議室

本年度最後の連絡会です。各ボランティアグループ（教会のしおりに掲載されているグループ）の責任者の方は、出席をお願いします。

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせ

☆ 社会活動部より ☆

2月6日(水)10時

♪手芸の集い（第1・2会議室）

どなたでも参加ご自由です。

9日(土) 炊き出しは拡大評議会開催のためお休みします。

17日(日)10時ミサ後 ♪ふれあい広場（イグナチオホール）

お弁当・食料品・手作り作品等。

25日(月)9時半

♪ともしび ケーキづくり（お台所）



《 図書室からのお知らせ 》

2013 年 1 月の購入図書

☆ ヘンリ・ナウエン その生涯とビジョン —— マイケル・オラフリン 聖公会出版

50冊以上の著作を通じて、今もなお多くの読者にインスピレーション（恵みのたまもの）と、生き方の指針を与え続けているヘンリ・ナウエン、彼の生涯の主な出来事を通じて、その生き方と意識が明かされます。ハーバード大での彼の助手を務めた著者の表現と、彼の内面の軌跡をたどる上で助けとなる多くの写真によって、ナウエン自身からのメッセージをより深い生き生きとした姿で受取れることができると思います。

☆ こころを病む人と生きる教会 —— 英隆一郎・井貫正彦 編 オリエンス宗教研究所

14年連続で3万人以上の自殺（自死）者をだし、また200万人以上の精神疾患に苦しむ患者（2008年・厚生労働省調査）が増えつつある日本で、今「こころに傷を受けた」人たちが、教会を訪れるようになっていきます。

こころの病をどう受け止めて、苦しむ当事者や家族・支援者の思いを見つめ、乗り越えていくための心構えを探り、実践例や信仰の観点からの見直しのヒントをたどりまします。宗教者、精神医学の専門家、関連した分野での実践に携わる人、当事者や家族の執筆からなります。

神の国に向っての希望を持って歩む小さな一歩をと願って編まれました。

☆ 十字を切る —— 晴佐久昌英 女子パウロ会

こころ打つ説教と幸いをよぶ随筆集の晴佐久神父が、「さあ、十字を切りましょう。十字を切れば、救われます。十字を切れば、もう救われていることに目覚めます。」と呼びかけます。

クリスチャンが、わが身に刻む十字のしるし。あなたを救う、最短最強の祈りのすべて。

☆ 3.11 後を生きる 「なぜ」と問わない —— 山浦 玄嗣 TOMO セレクト
——被災地ケセンから見た3.11 災禍とキリスト教 神さまの言葉は出来事の中に——

大船渡で自ら被災され、壊滅的状態となった瓦礫の町にあつて、医師として奮闘され、人々と共に涙した山浦さんが、災禍の意味を信仰の眼で見つめます。ケセン語訳聖書を著した山浦さんは、「祈る（ギリシャ語でプロセウコマイ）こと」は「願うこと」ではなく、「神さまのお言葉に耳を傾けること」であつて、しかも「言葉」はヘブライ語で（ダーヴァール）と言い、それは「出来事」のことであると言います。

一昨年、神戸で山浦さんのお話を聞く機会がありましたが、「ようがす、引きうげだ」の心意気をあらためて確認させられました。



図書室に置いて欲しい本、皆さん方にお勧めしたい本、・・・などありましたら図書室までお知らせ下さい。また図書室を利用しやすくするためのご意見もお願いいたします。教会図書室を利用したくなるように、また本や DVD などについて、皆様から寄せられる声をお待ちしております。

◆ 四旬節のお知らせ ◆

2月 13日(水)	四旬節に入ります。7時、10時、19時のミサ中・灰の式
2月 17日(日)	四旬節第1主日 洗礼志願式(10時ミサ)
2月 22日(金)10時	ミサ、十字架の道行き
3月 1日(金)10時	初金ミサ、十字架の道行き
3月 3日(日)10時	四旬節第3主日 ミサ(共同回心式)
3月 8日(金)10時	ミサ、四旬節ミニ黙想会 (共同回心式にあずかれなかった方の告解)
3月 15日(金)10時	ミサ、十字架の道行き
3月 22日(金)10時	ミサ、十字架の道行き
3月 24日(日)	受難の主日 10時のミサで枝の行列を行います。
3月 27日(水)	受難の水曜日 聖香油ミサ(11時カテドラル)
3月 28日(木)19時	聖木曜日 主の晩餐のミサ(洗足式 21:30まで聖体顕示)
3月 29日(金)19時	聖金曜日 主の受難の祭儀
3月 30日(土)19時	復活徹夜祭
3月 31日(日)7時、10時	復活の主日



みんなの広場

独り言

ヨハネ榮之助

2月13日は早「灰の水曜日」、今年は早い。大斎小斎の日、最近は大斎小斎もあまり意識されなくなったのではないかな。

御復活主日は、春分後の最初の満月の次の日曜日だと定められている。暦を見ると、春分は3月20日20時2分、次の満月は3月27日18時27分とある。だから御復活主日は3月31日。それから逆算すると灰の水曜日は2月13日になる。聖暦年の中心は元日ではなく「復活の主日」。まあ、暦は暦に任せておけばよい。

最近はやがて意識することはなくなったようだが、僕たち信者の日常は聖暦年に従って回転するはずではなかったか。聖暦年については「教会情報ハンドブック」の「教会の暦とともに」に要約されている。それが僕たちの一年ではなかろうか。聖暦年は行事や催し物のためではない。行事も催し物も目的ではなく聖暦年を生きている現れに他ならない。聖暦年の中心は何か、ともすれば意識しないで過ごしてはいないかな。

四旬節に入る。四旬節は四旬節だけで終わらない。続くものがある。日々生きているとはどういうことか、地上のその日々が終わるとはどういうことか、その先は？ 普段あまり意識しない？ 「棚ボタ」を期待して？

教会報3月の発行3月3日(日)です。 編集会議 2月24日(日)です。 記事原稿は、2月17日(日)正午までに信徒 会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp/	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
	〒657-0061	神戸市灘区赤松町3-1-21
	電 話	0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6
	F A X	0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3
	発行責任者	松 村 信 也
	編 集	広 報 部